

事例3 トップ・ダウン方式を取り入れたリーディング指導

——前年度の調査問題を用いて——

1. 単元・授業改善の視点

(1) 授業改善の視点

前年度調査問題として実施した“A Bus Driver’s Special Day”（自作教材）に改善を加えて実践した。調査問題はすでにPre-reading⇒In-reading⇒Post-readingという順で問いが組まれており、生徒に与える課題は前年度のものをほぼ踏襲したものとなっている。

指導の際に次のことに留意した。

ア. 課題の提示方法の工夫

Pre-readingの段階では、なるべく多くの生徒から初発の感想を聞いたり予想を立てさせることに努めた。そうすることによって徐々に教室全体に物語を読む雰囲気醸成されるからである。

In-readingの段階では、まずskimmingとして概要をつかませるために全体を読ませる必要がある。黙読で生徒個人で読みすすめることは大切な活動ではあるが、学力差や作業の速度の差が大きく、時間内では全く学習の成立しない生徒がいるであろうと予想される。そこでここではグループによる学び合いをさせ、全員に学習が成立するようにと考えた。

Scanningでは、長文から一片の情報をつかむ読みをするということから、個人でしかもなるべく早く見つけさせようと考えた。また、何度も繰り返し本文に目を通させたいということから、早く情報を見つけた生徒が挙手をするという方法で生徒全体に緊張感をもたせるよう努めた。さらに課題は「小出し」にして与えるようにした。

Post-readingは個々の意見や感想を書かせる活動であるため、個人での作業となるようにした。また、作業の速度の差を考慮し、早く終わった生徒のために、さらにもう1つのpost-readingの課題を設定することにした。

イ. 未習単語の導入の工夫

単語の導入は2回に分けて行なう。Skimmingに入る前に、その活動をするために必要となる単語を導入する。またscanningに入る前に、その活動をするために必要となる単語を導入する。

また、導入の方法は、絵・実物・文脈などを通して推測させるようにする。ただし推測させることが困難な単語については日本語で与えるものもある。

ウ. 正答・誤答を得たそれぞれの理由の把握

質問に対する解答を生徒に言わせる時は必ず、その答えはどこを読んで分かったのかを尋ねる。単語や物語の流れから予想を立てながら自分が必要としている情報の所在を見つけるための技術を身に付けさせ、誤答が見られた時には誤った読み取りがどのように行なわれたのかを知るためである。

(2) 単元名

A Bus Driver’s Special Day （自作教材）

(3) 指導目標

・書かれてある内容の概要をとらえ、徐々に細部へと読みを進めていくプロセスを

通して、日本語訳を介さずに物語の要点を把握し、物語全体の内容を理解することができる。

(4) 指導計画（指導時数 2時間）と評価規準

観点	学 習 活 動	評 価 規 準	時数
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・ Pre-reading の活動である。 ・ タイトルから本文の内容を予想し、日本語で答える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分なりに物語の予想を立てられる。 ・ 生徒が具体的な予想を立てることができたかどうかを評価する。 	1
理解の能力	<ul style="list-style-type: none"> ・ In-reading の skimming の活動である。 ・ 問題文にそって、要点を書いたカードを並べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不要なカードを除外して、正しい順に並べることができる。 ・ 本文の概要を把握できたかどうかを評価する。 	
理解の能力	<ul style="list-style-type: none"> ・ In-reading の scanning の活動である。 ・ 様々な質問を理解し、本文を読みながら要点を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 複数の異なった課題に正しく答えることができる。 	
表現の能力	<ul style="list-style-type: none"> ・ Post-readingの活動である。 ・ 登場人物の言動から、その心情をくみとる。また、本文を踏まえながら自分の考えを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 正しく問題文の内容を把握できる。 ・ 本文の内容を踏まえながら、登場人物の言動の理由について説得力のある説明ができたかどうかを評価する。 	1

題材文

A Bus Driver's Special Day

_____ 部は skimming で導入する未習語

★は scanning で導入する未習語

Tsuyoshi is a junior high school student. He lives in a small town near a big city. He likes to go to the city to buy CDs and visit bookstores.

One day during the summer holidays, Tsuyoshi got on a bus to go to the city. On the bus there was a girl sitting near the driver. Tsuyoshi knew her very well, because she came from Australia to study Japanese in his class.

"Hi, Jane. How are you today?" said Tsuyoshi.

"Fine, thank you. It's a beautiful day, isn't it? So I'm going to go to the city to walk around there."

"Really? Great. I'm going to go there, too."

Tsuyoshi sat in a seat next to her.

The bus was running through the town. They saw a long red bridge over the river. This was the place Tsuyoshi liked the best.

Suddenly the bus driver stopped the bus to see it.

"Oh, beautiful!" said Jane.

"Yes, it's a great day to see the bridge," said the driver.

"The sky is blue, the trees on the mountains are green, and the river is very clean and beautiful," said Tsuyoshi.

The driver listened to them, and looked very happy.

The bus began running again. "I'm very happy to spend this special day with you," said the driver.

"What does 'special day' mean?" thought Tsuyoshi.

The bus was going by a temple. It had a tall tree in its garden. There were some people around the tree. They had yellow helmets on their heads and saws in their hands. Some had yellow and black ropes on their shoulders.

"What are they doing? Do you know?" asked Jane.

"Yes," said the driver. "They will cut down the tree today. It is a special day for that tree, too." He looked a little sad.

The bus ran into the city and arrived at the terminal. No other passengers got on the bus.

"Thank you," said the driver, "I won't forget you."

Tsuyoshi smiled and said, "But what is 'special day'? What does it mean?"

The driver took off his cap, smiled, and said to them, "It is my last day as a bus driver. You are my last passengers."

2. 指導の実際

上記指導計画に基づいて行なった指導から、Pre-reading の段階、In-reading (skimmingやscanning)の段階、Post-readingの段階に分けて、それぞれに工夫した点や反省点、改善点を記していく。

(1) Pre-reading

教師の働きかけ	生徒の反応	反省点・改善点 など
<p>“We are going to read a story. Its title is ‘A Bus Driver’s Special Day’. What is this story like? 予想してみよう。”</p> <p>「もっと具体的に、どんな特別なことがあったのだろう。」</p>	<p>「バスの運転手に何か特別な事件が起こった。」</p> <p>「初めてバスの運転をした。」</p>	<p>・自主的に意見を述べる生徒が少なく、十分に意欲を高められたとは言えなかった。</p> <p>改善策としては、個々の生徒の考えを深めさせる時間を確保すること、また、タイトル以外のキーワードやキーセンテンスを与えることも考えられる。</p>

(2) In-reading(skimming)

教師の働きかけ	生徒の反応	反省点・改善点 など
<p>“Make groups. I’ll give you six small pieces of paper. Read the passage and put these cards in the right order.”</p> <p>《カード》</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">Tsuyoshi got on the bus to go to the city.</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">Tsuyoshi saw Jane in the bus.</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">The bus stopped near the bridge.</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">Some people were around the tree.</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">The bus arrived at the terminal.</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">Tsuyoshi played baseball near the bridge.</div>	<p>・班ごとに読みあいながら学習を進める。班によって読み進め方を工夫していた。</p>	<p>・学び合いを期待して班での活動にした。下位の生徒も学習に参加できた点はよかったが、読み進め方を指導しなかったので、班によっては文章全体を班員の数で割って分担していたところがあった。</p> <p>Skimmingの意図からすると、まず全体を読まなければならないので個々で読ませてから班活動させるなどの方法を工夫する必要がある。</p> <p>・解答するとき、物語全体のイメージをつかませるためにカードの英文が表す場面を絵で描いて示した。下位の生徒でも十分に全体の流れを把握することがで</p>



きた。

・本文とは関係のないカードを加えることによって、より正確な読み取りをしようという意識を持たせることができた。

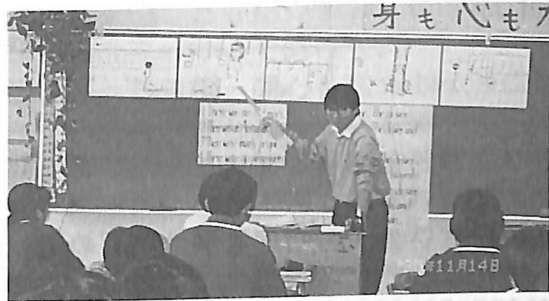
(3) In-reading(scanning)

教師の働きかけ	生徒の反応	反省点・改善点 など
<p>“Tsuyoshi likes to go to the city. That day he went there by bus. When he got on the bus, did he find any passengers? Choose the correct one;</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>1 There was an old man. 2 There was an Australian girl. 3 There were many people. 4 There were no passengers.</p> </div>	<p>・本文を読み、ツヨシがバスに乗車した時の、車内の様子を記述してある部分を見つける。 答えが分かった生徒から挙手するが、多くの生徒がすばやく答えを見つけることができた。</p>	<p>・ Scanningでは10問ほどの課題を与えた。全て同様に、「本文のどこを読めばわかるのか？」を答えさせた。Scanningは文章中の特定の情報を見つける読み方なので、このようにして理解度を評価することが有効である。仮に誤答であっても、それがどうして得られたのかを知ることにより指導が施しやすくなるのである。 課題は全て黒板に貼って示した。選択問題でないのであれば口頭でよりスピーディーに行なうこともできる。また、全ての問いを一度に与えるのではなく「小出し」にすることによって何度も本文を読ませることができる。</p>
<p>“The bus arrived at the terminal at last. How many people were there in the bus then? Choose the correct one;</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>1 One. The driver. 2 Two. The driver</p> </div>	<p>・本文を読み、バスが終点に着いた時の車内の人数を考える。この問いの答えは本文の最後の方を読まなければ分からないので、前の問いよりも挙手が少なく、その早さも遅かった。</p>	

and Tsuyoshi.

3 Three. The driver, Jane, and Tsuyoshi.

4 Four. The driver, Jane, Tsuyoshi, and an old woman.



「ツヨシとジェーンはバスに乗り合わせる前からお互い知り合いました。さて、それはなぜでしょうか。」

「また、運転手は途中でバスを止めるのだけれどどこで止めたのでしょうか。」

「なぜバスの運転手はそこでバスを止めたのでしょうか。理由を答えなさい。」

「また、高い木はどこにありましたか。」

「運転手は、『この木にとっても、今日は特別な日だ』と言っているが、この木にとっての特別な日とはどういう日なのでしょう。」

「さらに、運転手にとっての特別な日とはどういう日なのでしょう。」

・本文を読みながら答えを探す。この問いは本文の前半部分と中盤部分を読み取れば答えを得ることができる。男子の上位の生徒が素早く挙手したが多くの生徒は探すのに時間がかかった。

・この問いは本文の中盤と後半を読み取れば答えを得ることができる。前の問いに比べ、生徒の反応は速くなったが、1つ目の問いの解答がうまく探し出せない生徒もいた。

・この問いは本文の中盤と後半を読み取れば答えを得ることができる。物語の中核を担う場面であるが、多くの生徒はすでに読み取っており、挙手の反応はこれらの問いの中で最も速かった。

・この後は2つずつ日本語による問いを3回に分けて与えた。読み取りの速い生徒はこの時点ですでに本文の内容のほとんどを理解しているが、まだ断片的な情報しか得ていない生徒も多い。個人差に応じた指導が必要となる場面であると感じた。

(4) Post-reading

教師の働きかけ	生徒の反応	反省点・改善点 など
<p>「これからプリントを配ります。そこに書いてある課題に答えなさい。」</p>	<p>・プリントの課題に取り組み。 解答例は以下の通り。</p>	<p>・どちらの問いについても本文中に答えは書いてないので、生徒は自由に自分の考えを記述した。本文の内容をしっかりと踏まえた意見が多かったが、中には本文の内容から逸脱してオリジナルの物語を作った生徒もいた。 この段階では、本文の内容を踏まえながらも個々の生徒が自由に記述することを認めることが大切である。</p>
<p>1 バスの運転手は切り倒される木を見て悲しそうでした。それはなぜですか？ 今日、自分も運転手をやめるので、まるで自分のようだと思ったから。</p> <p>2 バスの運転手は "I'm very happy to spend this special day with you." とツヨシたちに言いました。それはなぜでしょう？ 話を聞いて、例えば同じけしきに感動したりして、気が合ったから。</p>		
<p>1 バスの運転手は切り倒される木を見て悲しそうでした。それはなぜですか？ いつも見ているものが、なくなっただけじゃなく、(実は、そこで生まれた人だった)</p> <p>2 バスの運転手は "I'm very happy to spend this special day with you." とツヨシたちに言いました。それはなぜでしょう？ 誰ものつくれたよいはさみしがあった。話を聞いて、気がまぎれてよい。</p>		

3. 考察

(1) Pre-reading について

タイトルを示してその内容を予測させることは、読むことの意欲を喚起するには十分な活動であったとは言えなかった。しかし一般的に、読む前にどんな内容が書いてあるのかを予測させることは読みを進めるうえでは有効な手段である。タイトル自体が漠然としすぎていたため、短時間では生徒の想像力を導き出せなかったと考えられる。

そこで、例えばタイトルを "An Old Bus Driver's Special Day" というように、より限定してみる。そうすることで、歳をとったバスの運転手がある特別な日を迎えるという、よりspecificな場面を予測させることができるのではないか。

あるいは、タイトルと同時に登場人物を絵などで紹介する。視覚的に人物をとらえることによって物語の場面にすんなり入っていけるであろう。

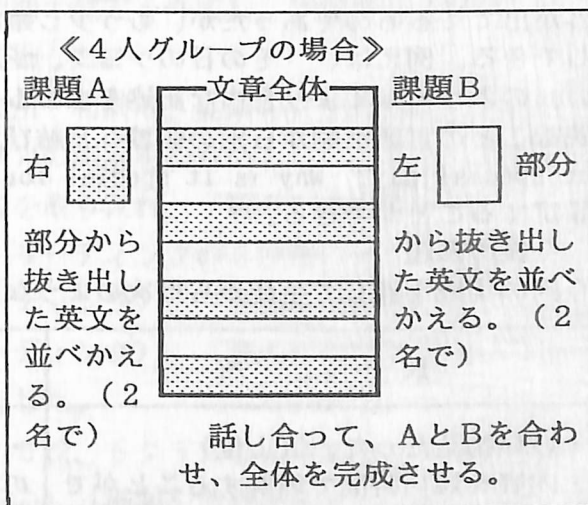
多種多様な予測をさせることは、物語への興味・関心を高めるという点では大切なことであるが、仮にその予測が大きく本文の内容と違っている場合はIn-readingの段階で誤った解釈を招く危険性がある。プロジェクト第2年次の報告書でも、Pre-readingで立てた予測が後の読み取りの障害になる場合について記述されている。このことから、自由な予測を立てさせながらも本文の内容と大きく方向性が異なる場合はこの段階で修正を加えることが肝要である。

(2) In-reading(skimming)について

与えられた英文を、文章の流れに合うように並べかえさせる活動を行なった。この段階は文章全体に目を通させ、概要をとらえさせることが目的なので、適切な課題であったと言える。また、グループ活動で行ったこと、さらに解答の時に絵を用いたことで下位の生徒でも文章全体のイメージをつかむことができた。

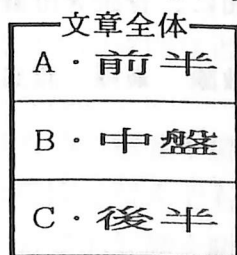
しかし、グループでの読む活動をどのように組織するかという課題が残った。分担して段落読みしかなかったグループもあり、方法を工夫する必要がある。例えばまず個々に読ませる時間を与え

たり、右図のようにグループ内でもさらに別の課題を与え、最終的にグループとしてまとめる、という方法も考えられる。



(3) In-reading(scanning)について

文章中から必要な情報を探し出す読み方である。なるべく何度も通読させるために課題は一気に与えるのではなく、1~2問ずつ小出しにして与えるとよい。今回の指導ではまず答えやすいようにと考え、選択問題を2問与えた。その後は、日本語の問いを2問ずつ組み合わせ、3回に分けて与えた。また、そのつど答えの確認をするようにした。課題は先に進むほど難しく、また物語の核心に迫る問いとなるように配列した。課題の組合せは文章中の同じ部分から答えが得られるものではなく、例えば以下のように、1つが前半から読み取れるものであればもう一方は中盤を読まなければ分からない、というように組み合わせた。



- 問1 (1問) ⇒ Aから読み取れる。(2.授業の実際参照)
- 問2 (1問) ⇒ Cから読み取れる。(2.授業の実際参照)
- 問3 (2問) ⇒ AとBから読み取れる。
- 問4 (2問) ⇒ BとCから読み取れる。
- 問5 (2問) ⇒ BとCから読み取れる。

このようにして問いを重ね何度も目を通させることによって、必要な情報を素早く収集するというscanning本来の活動に生徒は慣れてきた。

この活動がうまくいった理由は上記のような配慮の他に、解答する時にその答えの根拠を文章中のどの部分から見つけたのかを確認したことが大きい。以前行っていた指導では、生徒の読み取りが正確に行われているかを評価するものが多かった。しかし今回の実践で分かったことは、答えの確認をする際にその根拠について言わせることを通して、下位の生徒も徐々に読み取りかたを身に付けたということである。

(4) Post-readingについて

本文で読み取った内容を踏まえて、登場人物の心情を汲み取りながら自由に表現する活動である。今回与えた問いは読み取りが正確に行なわれていればほぼ同じような解答が出てくるものであったが、もう少し踏み込んで創造性のある課題を設定することもできる。例えば、「その日のツヨシ、ジェーン、運転手の日記を代筆してあげよう。」のようにしてより自由な記述を求めることができる。

読むことの言語活動から別の領域へと結びつける活動としては、例えば“What is your special day? Why is it special for you?”のようにして書くことの言語活動を設定することができる。

(5) 今後の課題

今回の実践を通して生徒からは次のような反応が見られた。

長 所	短 所
<ul style="list-style-type: none"> ・ いい物語だった。(上位) ・ 内容を短い時間で理解することができた。(上位) ・ 緊張感をもって取り組むことができた。(中位) ・ 最初に物語の内容を予想するのが楽しかった。(下位) ・ 長文の読み方が分かった。(中位) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 物語の全てが分かったとは言えないので何となく不安だ。(上位) ・ 長すぎて最初から読む気がしなかった。(中位) ・ よく分からなかった。(下位) ・ 物語の内容は分かったが、何が大切なのか分からなかった。(中位) ・ 声に出して読まないで、何となく不安なのでやってほしい。(中位)

以上から、今後はトップ・ダウンのみに偏りすぎることなくボトム・アップの利点である正確で細かい読みも指導に生かさなくてはならない。また、生徒にとって読むことの目的が希薄であったと言えるので、文章中から何を読み取り、学べば良いのかを最初に指導することが大切である。さらに指導案の中のどの場面に、音読を位置付けたら良いかも考えていきたい。

(新津市立新津第五中学校教諭 斎藤 雅典)